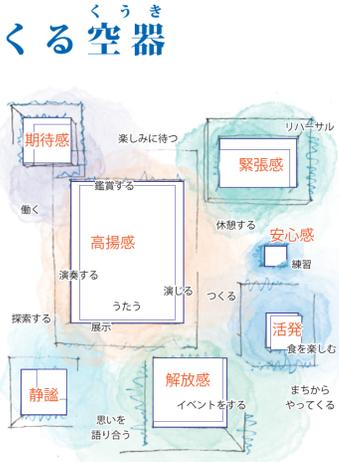


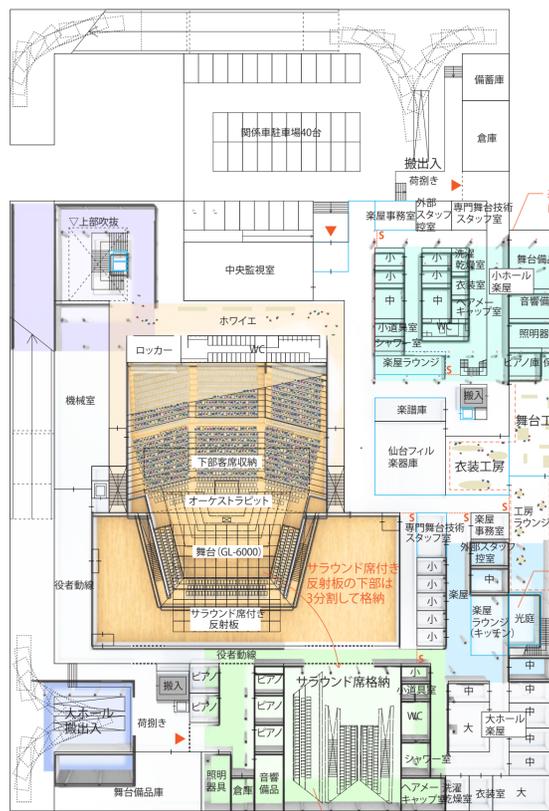
響きあう関係をつくる空器

音楽ホールが、空間に響き渡る音を共有することで人と人をつなぐ器であるように、「空」を共有する「器」によって、機能を越えたつながりを生み出す建築を提案します。



- 音楽ホールを含む、7つの「空器」によって、異なる質を持った場を生み出します。
- 「空器」は、気積としての「空」と、これを包む「器」の二重構造によって構成します。
- 音楽ホールと震災メモリアルという機能毎ではなく、「空器」のトーンを共有することによって、人々がつながる場をつくり出します。

7つの空器が響き合う



S=1/600

地下1階：ホールにまつわる活動が集積する

高さ制限によりメインホールは地階に配置します。来客はホワイエを介して立体的に移動ができるものとし、また搬入も地階から行います。楽屋機能や市民活動機能を東側に集約し、日常的な活動から舞台までをつなぎます。サラウンド型の舞台上客席は、プロセニアム利用時には折りたたんで格納可能です。



ランドスケープとつながり、内外で活動が展開する



トッライトの光が降り注ぐ、開放的な交流の場を囲んで集う



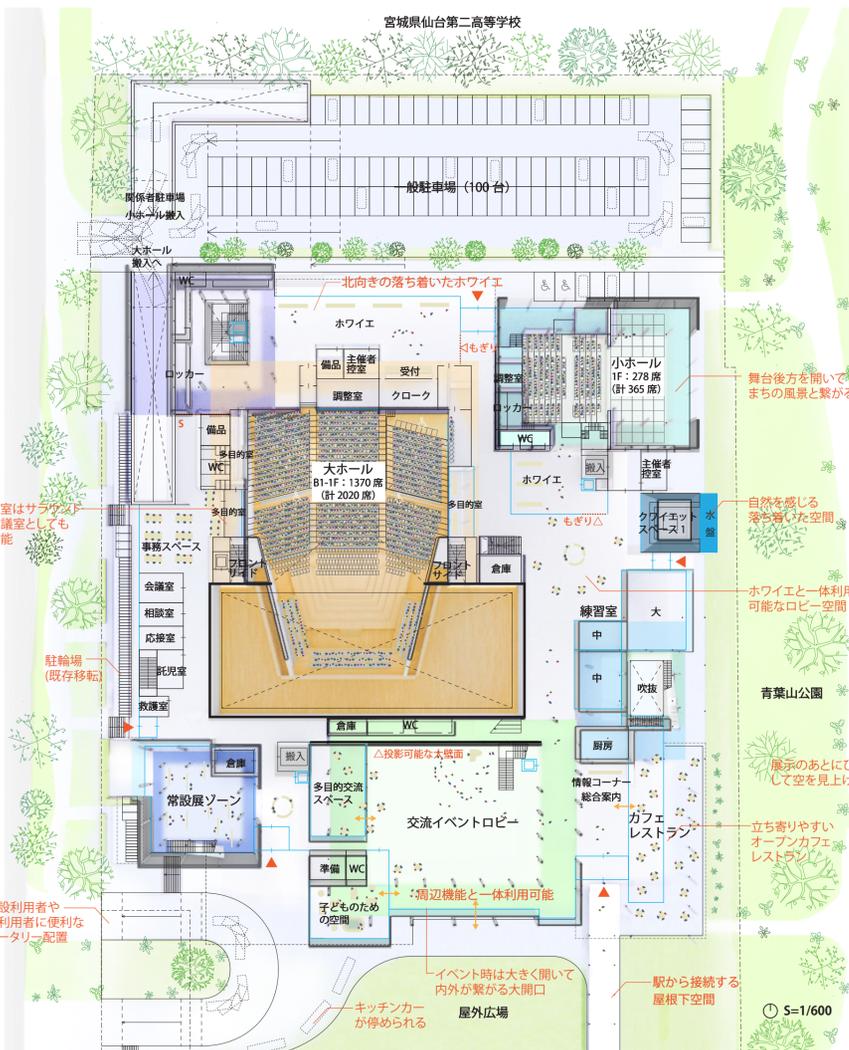
静謐な光の中で、災害文化に思いを馳せる



明るい庭を囲んで、お互いの活発な活動を感じる



広瀬川や緑の風景の中にやわらかく佇む



S=1/600

1階：まちとつながる活動が人々を迎え入れる

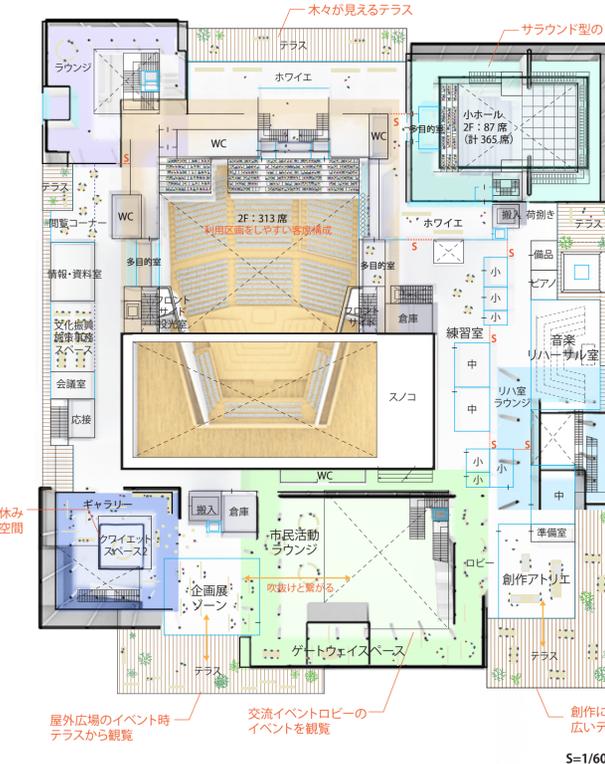
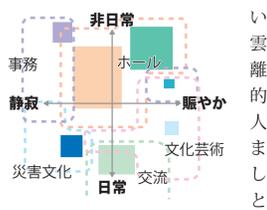
駅に面して一体的に屋外広場と交流スペースを配置し、多くの人を迎え入れます。広瀬川に向かっては、まちの日常の風景を見ながら過ごすことのできる空間とします。北側駐車場から下がりながらアプローチしていくと、高揚感のある立体的なホワイエエリアが現れます。道路に面しては落ち着いた環境を確保して、執務や展示鑑賞などに専念できるものとしています。



一体感を持ちながらも、周りの活動とつながる音楽ホール

7つの「空器」が重層的に響きあう

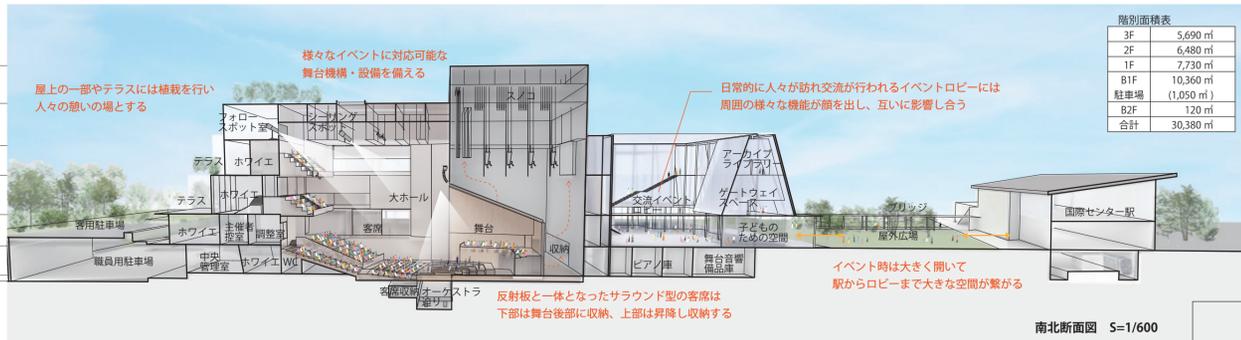
「空器」は、気積の大きさや光の入り方などによって異なるトーンを持った場となります。それぞれの「空器」の周りには、トーンに応じた活動が、機能を越えて寄り添う関係をつくり出します。7つの「空器」は、周囲の活動によって場の質が醸成され、それらが互いに影響し合う関係となります。



S=1/600

2階：思い思いに活動に没頭する

2階は1階の活動を見下ろしながら、各々の活動に没頭することのできるフロアです。吹抜けを諸室や専用ラウンジで囲みながら、重層的に各機能へと没頭していける空間としています。フロアの各所にテラスを配置することで、様々な人が思い思いに活動をしながらか、常にまちの風景を共有する関係をつくり出します。



南北断面図 S=1/600

3階：様々な活動が溢れ、混ざり合う

文化活動やアーカイブ活動など、各機能の活動が共用部に開いて活発に行われるフロアです。相互に活動が見え、共用部で混ざり合うことで、機能連携や情報交換の場にもなります。2-3階は日常時には共用部をぐるりと回遊することができ、訪れた人が目的と異なる活動に自然に出会うことのできるものとしています。

階別面積表	面積
3F	5,690 m ²
2F	6,480 m ²
1F	7,730 m ²
81F	10,360 m ²
駐車場	10,050 m ²
82F	1,120 m ²
合計	30,380 m ²